

ゆめみにゅーす



YUMEMI ZOO



季刊 VOL. 61
発行日 令和3年8月5日
発行責任者 夢見ヶ崎動物公園
問い合わせ 044-588-4030
飼育展示数 哺乳類:24種158点
鳥類:24種83点
爬虫類:10種98点
(令和3年7月末日現在)

元気です

最近の動物たちの様子です。暑くてだれるもの、元気になるもの、様々です。



ミドリあいがとう

2021年6月6日、ハートマンヤマシマウマのミドリが死亡しました。22歳でした。

最近では加齢により筋力の衰え、運動量の低下や蹄の過長などがみられており、治療のため削蹄を行いましたが、その後の回復が芳しくなく、残念な結果となりました。

ハートマンヤマシマウマは野生では絶滅が危惧されており、日本国内でも十数頭しか飼育されていません。そのうち当園で飼育しているアースの他、計3頭がミドリの子どもです。

職員にも来園者にもいろいろな思い出を残してくれたミドリ、一言で言うてしまうのは申し訳ないのですが、ほんとうにありがとう。



*公式フェイスブックはじめました。詳しくはこちらから。



★ピックアップ動物★

クモザル 哺乳綱 サル目 クモザル科

中南米の熱帯雨林に生息し、主に果実や木の葉などの植物を食べ、数頭から数十頭の集団で、ほとんど地上に降りず樹上で暮らします。蜘蛛を思わせる長い四肢と、5本目の手足とも呼ばれる長くて器用な尾が特徴です。尾の先端には指紋のような皺があり、枝などをしっかりつかんで体をぶら下げることがもできます。

当園のサマンサは雑種のメスで、来園してちょうど30年、この8月で35歳になります。穏やかですがちょっと神経質で、なにか嫌な思いをするとすぐ下痢をしてしまう繊細さもありますが、清掃中にホースの水を直接飲み、もういない時はホースを持った飼育員の手を押し戻したり、機嫌が良いと口をすぼませながらつぶらな瞳で見つめてきたり、かと思えば柵越しに突然、目つぶしの突きを繰り出すこともあり、様々な顔を見せてくれます。

2011年に同居していたオスのダーリンが急死した直後は少し元気がなくなることもありましたが、現在は飼育員や隣のフサオマキザルとほどほどに交流しつつ、穏やかに暮らしています。



獣医の日記

今年もこの季節がやってきました。春から夏にかけて、動物園の動物たちも、野生動物たちも、多くが出産・孵化を迎えます。飼育動物はともかく、野生動物は生まれたての幼鳥・幼獣は弱って死ぬもの、捕食されるものも多く、それゆえにたくさん産み育てる親、自分の子を育てるために必死にそれらを狩る親、動物種によって形は違いますが皆ヒトが考えているのとは異なる自然の摂理の中で生きており、人が手出し・口出しするのは基本的にルール違反です。弱っていても自然でのごとくなら、保護の名目で人がそこから連れ出してしまったら自然に還るのを邪魔することになります。死んだ動物を食べるもの、分解して土に還すもの、その土で維持される自然があります。飛べない巣立ちびなをその場から連れてきてしまったら、親から見れば誘拐、捕食者から見れば貴重な食料の泥棒です。

もちろん交通事故や人工物への衝突、ネズミ捕りの粘着剤など汚染物質による被害など、ヒトが関わった事故などに対してはヒトが対処しなければいけません。我々が動物園の動物の飼育・治療の合間を縫ってそのような野生動物の保護・治療にあたるのはそのような思いがあつてのことですが、それ以外の皆が、車の運転を注意する、ゴミは正しく出す、などちょっとした行動でもう少し動物にも優しい世界になることに気付いていただけたらと切に思います。おそらく多くの方が思っている以上にたくさんの野生動物が都会にも暮らしています。動物がいても驚くことではありません。ヒト以外が生きられない街ではヒトもそう長く生きられません。



★動物たちの主な移動(令和3年5月1日~令和3年7月31日)★

プレーリードッグ(♀2搬出→相模原市麻溝公園)、マーコール(♂1♀1死亡、♂3繁殖)、ハートマンヤマシマウマ(♀1死亡)、ホンシュウジカ(♂2♀1繁殖)、パラワンコクジャク(性別不明2繁殖)、アメリカアカリス(性別不明2繁殖)